

講義名	経営戦略論 B			
担当教員	青木 良三			
開講期・曜日・時限	後期 金曜日 3時限	授業形態	講義	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考

主題と概要 <ul style="list-style-type: none"> 本講義の主題は、経営戦略論を学習するものにとって当然知っておくべき基本的知識を解説することにあります。理論のみならずケースも紹介しますので、実際のビジネス界の出来事も学習できる内容になっています。 本講義では、経営戦略論のうち企業（会社）戦略について解説します。 なお、事業（競争）戦略と機能別戦略については、経営戦略論Aで行います。 本講義のレベルは、入門書レベルに一部中級レベルの話が加わります。経営戦略論Aよりは講義内容はむずかしいと思います。

到達目標 <p>学生は、本講義を受講することによって、経営戦略に関する理論を理解できるようになります。</p> <p>学生は、それらの理論を使って、企業経営を分析できるようになります。</p> <p>学生は、企業経営の仕組み、とくに経営戦略を、理論に基づき、自ら考え、理解することができるようになります。</p>

提出課題 <ul style="list-style-type: none"> 提出課題は、ありません。最近コピーしたレポートが多いためです。 レポートの提出は、任意とします。 対面授業を予定していますが、オンデマンド授業になった場合、毎回レポート提出を求めます。
--

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック <ul style="list-style-type: none"> レポート、小テストを予定していませんが、授業に関する問い合わせは、授業中もしくは電子メールで行います。
--

評価の基準 <ul style="list-style-type: none"> 期末試験の評価100%で行います。 ただし、授業中の私の質問に対する発言は、1回1点で加算します。最大30点。また、任意のレポートの内容が良ければ加算します。コピーは、ゼロ点とします。 オンデマンド授業になった場合は、毎回提出されるレポートを評価します。
--

履修にあたっての注意・助言他 <p>対面講義の場合 期未試験は、授業中に話したことや板書した事例、授業中に配布した資料から出題します。授業の欠席が多いと、試験で得点するのがむずかしくなるので気をつけてください。</p> <p>私語等により他の受講生の迷惑をかける学生には退室を命じます。その指示に従わない場合には、減点します。</p> <p>オンデマンド授業になった場合 毎回提出するレポートで評価しますから、提出回数が少ないと単位取得がむずかしくなります。</p>
--

教科書 <ul style="list-style-type: none"> 教科書は使用しません。 					
--	--	--	--	--	--

プリント資料及び参考文献 <ul style="list-style-type: none"> 経営学検定試験公式テキスト2『マネジメント』経営学検定試験協議会監修、経営能力開発センター編集、中央経済社 2015年2月 資料は、RYUKA Portal からダウンロードできます。

授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 経営戦略の体系 経営理念、ビジョン、ミッション ケーススタディ パナソニック、ソニー、ホンダ 事業の定義と企業ドメイン ケーススタディ 富士フィルム アップルの製品 市場マトリックス ケーススタディ プリヂストンの市場開発戦略 ケーススタディ キヤノンの多角化戦略 M & A戦略 グローバル戦略 ケーススタディ コカ・コーラ、P & G 経営戦略の策定プロセス 経営戦略分析（機会と脅威の発見）と内部環境分析（強みと弱みの認知） SWOT分析 ケーススタディ ファーストリテイリング
--

授業形態（アクティブ・ラーニング）								
<table border="1"> <tr> <td>ア：PBL（課題解決型学習）</td> <td>イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）</td> </tr> <tr> <td>ウ：ディスカッション、ディベート</td> <td>エ：グループワーク</td> </tr> <tr> <td>オ：プレゼンテーション</td> <td>カ：実習、フィールドワーク</td> </tr> <tr> <td>キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）</td> <td></td> </tr> </table>	ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク	オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク	キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	
ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）							
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク							
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク							
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）								

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間 <ul style="list-style-type: none"> 予習について、テキストはありませんが、参考文献やシラバスに記載した企業に関する雑誌記事、新聞記事を読んでください。 復習は、配布した資料を読んで、出てくる経営学の用語の意味をしっかりと理解し、使えるまで学習してください。 予習に3時間、復習に1時間が目安になります。
--

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 <p>本授業を履修することにより、経営理論や事例を理解することで、情報収集力、情報分析力、課題発見力、課題解決に向けた構想力といった能力が身につきます。</p>
--

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述 <ul style="list-style-type: none"> レスポンス等の使用を予定していません。使う場合は、事前に講義連絡します。
--

実務経験の有無及び活用 <p>実務経験あり。1979年から1997年まで銀行に勤務。調査や融資、ファンド運用を担当しました。授業で取り上げる企業の事例について、企業分析の実務経験を踏まえたコメントができます。新聞記事とは違ったコメントができます。</p>
--

備考
